

第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム 研究委員OB・OG報告会（第3回）の様相について

2025年9月1日

日本証券業協会

<会合の概要>

2025年8月21日（木）、第6期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム研究委員OB・OG報告会の第3回会合を開催した。
今回の会合では、2名の研究者より近時の研究内容について報告が行われた。

発表者 京都大学大学院 山下 徹哉 教授（第4期研究委員）

テーマ：パッシブ・ファンドによるスチュワードシップ活動の
インセンティブに関する分析

ディスカッサント：慶應義塾大学大学院 久保田 安彦 教授



発表者 早稲田大学 商学学術院 尾崎 祐介 教授（第4期研究委員）

テーマ：『慎重』と呼ばれるリスク選好の経済実験

ディスカッサント：敬愛大学 和田 良子 教授

意見交換では、山下教授の報告に対して、ディスカッサントである久保田教授をはじめ、参加者から「米国と比較しながら、日本の資産運用業界の現状を踏まえた分析を試みるものであり、これまでの我が国の法学で欠けていた研究として貴重である」「投資家（ファンドまたは資産運用業者）間のフリーライド問題について、日米間でその構造にどのような違いがあるのか」「日米では金融市場の構造自体が大きく異なるため、その点も含めて研究を進めることで、より広範な議論が可能になるのではないか」「日本銀行は GPIF と並ぶ日本最大規模のパッシブ投資家であるが、スチュワードシップ活動に関与していない点についても触れられてはどうか」などの質問や意見が寄せられ、活発な意見交換が行われた。また、尾崎教授の報告に対しては、ディスカッサントである和田教授をはじめ、参加者から「慎重さや節制を含むリスク選好について、理論的な枠組みを丁寧に実証しており、他の実験研究とは一線を画す研究である」「例えば、保険会計におけるリスク調整の計算などの分野でも、本研究の成果が活用できる可能性があるのではないか」「金融リテラシーが向上することで認知的負荷が軽減され、慎重ではなくなるという示唆は得られるのか」「認知的負荷が投資判断に影響を及ぼすとのことだが、その前提として一定の金融リテラシーが必要となるのではないか」といった質問や意見が寄せられ、活発な意見交換が行われた。

以上